

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020020

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B		
単位施策	3	消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	救急業務体制整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	15 消防支署		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	救急救命士研修回数		関係課	#N/A		
事業目標	10回		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	有 救急救命士法、救急業務実施基準		
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士養成採用(1名) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用(1名)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	
	事業費(千円)	15,402	5,550	5,682	1,557	1,056	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	15,402	5,550	5,682	1,557	1,056		
一般財源	15,402	5,550	5,682	1,557	1,056		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	9,861	4,522	5,339	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	9,861	4,522	5,339				
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 救急救命士養成採用(1名) 気管挿管病院実習	(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 救急救命士採用(1名)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	3研修	2研修	2研修	1研修	2研修
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	81%	94%	0%	0%	0%
	全体達成率	29%	64%	64%	64%	64%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆				

事業名	救急業務体制整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	安本 明志美
		評価者 作成者 職氏名	警防係長	高野 一晃

様式1  
平成26年度実施  
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員(救急救命士)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	救急活動の充実	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	救急現場に救急救命士が出勤し、重度傷病者に高度な救命処置を実施する。	① 札幌医大研修 ビデオ硬性喉頭鏡病院実習	目標年度	平成26年度
			目標値	9人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	研修をすることにより、救急救命士が高度救命資器材を使用できるようになり、重度傷病者の救命率の向上、予後に抱える後遺症の軽減が図られる。	② 救急救命士新規採用数	実績値	9人
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	札幌医大研修	医師の指導のもと研修(救急搬送患者を医師の指示のもと処置を実施)を実施(26年度 7名)		
	ビデオ硬性喉頭鏡病院実習	遠軽厚生病院でビデオ硬性喉頭鏡実習を実施(2名)		
	救急救命士採用	町広報誌、町ホームページ、新聞広告に掲載、養成学校(北海道ハイテクノロジー専門学校・吉田学園医療歯科専門学校)へ依頼し1名採用。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	現有救急救命士の生涯研修及び実習は義務付けとなっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	現有救急救命士の生涯研修及び実習については達成でき、新規救急救命士1名が採用になる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	現有救急救命士の生涯研修及び実習を受けたことにより、町民に対し高度な救命処置を実施できる資格を取得した。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	新規救急救命士が1名あり効率的な人員配置ができるようになった。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	人員削減	
課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	救急救命士の資質向上を図り、資格者が増員となったことにより、重度傷病者に対し高度な救命処置が実施できる。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
救急救命士資格者1名の採用により、今後有効的な人員配置ができるようになった。 研修については、手技の向上が認められるため今後も必要であると考える。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
町民に対し高度な救急活動を行うことが、安心できる町づくりを目指すには必要であり、継続事業であることが適当である。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止